

特集：能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・実践

# 大学教職員向けセミナー動画配信サイト PDPonline の閲覧ログに基づく利用状況の確認

今野 文子\*, 朱 嘉琪\*, 三石 大\*\*

## Usage of the Online Video Streaming Website “PDPonline” for University Faculty and Staff Members

—Based on an Analysis of the Access Log—

Fumiko KONNO\*, Jiaqi ZHU\*, Takashi MITSUSHI\*\*

### 1. はじめに

近年、大学教職員向けの研修などにおいても ICT を活用した取り組みが報告されるようになってきた。例えば大阪大学では、学習者中心の教授法や、英語による講義能力向上のための教員用 e ラーニング教材を開発し、教員が都合のよい時間に自学できるよう提供している<sup>(1)</sup>。また、全国私立大学 FD 連携フォーラムでは、2013 年度時点で 41 件の FD 講座をビデオ・オン・デマンドで会員大学などに提供している<sup>(2)</sup>。しかしながらこれらの動画配信は、自大学の LMS 上での提供や、会員 ID の発行による特定の利用者への配信に限定され、学内外の任意の利用者が自由に視聴できるものとはなっていない。また、その利用状況についても詳細までは公表されておらず、実際にどの程度活用されているのかまでは確認できない。

一方、東北大学高度教養教育・学生支援機構では、大学教職員の組織的な研修などの実施拠点として、各種セミナーやワークショップ、シンポジウムを実施しており、これらを広く学内外で利用してもらうため、セミナー動画のオンライン配信サイト「PDPonline」を運営している<sup>(3)</sup>。この PDPonline は、利用者登録が不要であり、インターネット環境さえあれば、誰でも自由に視聴することができる。

PDPonline を提供する目的には、(1) 東北大学の拠点事業の取り組みの広報・周知活動、(2) 時間と場所に縛られない専門性開発の機会の提供、(3) 他大学の研修担当者・企画者への情報提供、がある。このうち(1)と(3)については、他大学の教職員などから直接問い合わせがあったり、PDPonline を自大学における研修で利用したいといった要望が寄せられたりするなど、広く活用されている実態が把握できている。

一方で、(2) に関しては、実際にどの程度利用されているかについて、PDPonline の場合、利用者登録による認証などもないことから、これまで明らかになっていなかった。PDPonline は学習者管理や修了証発行などは行っておらず、高度に動機づけられた学習者でなければ、セミナーの全体を最後まで視聴しないことも容易に推測できる。このような環境において、どの程度学習が行われているのかについて明らかにすることができれば、多忙な大学教職員向けの各種研修の内容や提供方法を開発・運営するうえで、有用な情報となりうると考えられる。

そこで本稿では、PDPonline の閲覧ログを分析し、その利用状況について確認する。

\* 東北大学高度教養教育・学生支援機構 (Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University)

\*\* 東北大学教育情報基盤センター (Center for Information Technology in Education, Tohoku University)

受付日：2016 年 6 月 17 日；再受付日：2016 年 9 月 6 日；採録日：2016 年 10 月 5 日